

もっと歩きたくなるまちに。

いけぶくろ

ウォーカーブル

CONCEPT BOOK

TOSHIMA CITY



## 「人」が主役のまちづくりで もっと歩きたくなる池袋に。

都心にいながら  
自然と触れ合える公園や公共施設。  
アートとカルチャーが融合するイベント。  
シンボルストリートを軸に、  
駅東西にひろがる歩行者空間。

池袋ならではの歴史・文化・自然を生き  
この場所で暮らす人も、訪れた人も  
誰もが自分らしいライフスタイルを  
実現できる都市。

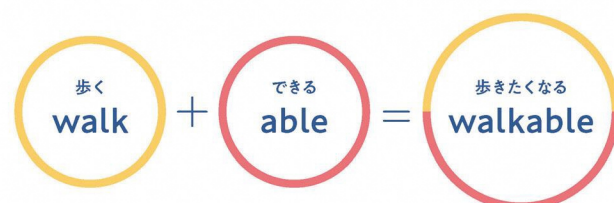
もっと歩きたくなる、  
「人」が主役のまち。

それが、ウォーカーブル都市・池袋の  
目指す姿です。





## “ウォーカブル”ってなに？



ウォーカブル(walkable)とは、「歩く」を意味する「walk」と「できる」の「able」を組み合わせた造語です。文字通り「歩きやすい」「歩きたくなる」といった意味を持っています。車中心だった都市から、人中心の都市へシフトするための言葉として、世界中で注目されています。

## どうして“ウォーカブル”なの？

ウォーカブルなまちづくりでは、居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成を目指しています。歩きたくなるまちなかになることで、地域消費や投資の拡大、観光客の増加や健康寿命の延伸、孤独・孤立の防止など、様々な地域課題の解決や新たな価値の創造につながることが期待されています。

## 豊島区の将来都市像

# 「人」が主役のまちづくり



今後、区制100周年となる2032年に向けて、文化の力で価値あるまちを目指す「国際アート・カルチャー都市」、子どもたちに未来を託す「SDGs未来都市」、人が主役の「ウォーカブル都市」の3つの将来都市像を実現するため、官民一体となって取り組んでまいります。



これから、どうなっていくの？

“「人」が主役のまちづくり”を 実現するための取り組みを進めていきます。



Theme 01

### 世界に選ばれるアート・カルチャーによるまちづくり

「国際アート・カルチャー都市」を実現するまちの基盤整備や空間活用、地域活動促進に加え、官民境を感じさせないグランドレベルの創出、質の高い都市空間を形成します。官民連携によるアート・カルチャー施策のさらなる推進により、池袋に暮らす人や訪れた人の活動がグランドレベルにあふれ出すまちを目指します。

P. 8 KEYWORD / 文化



Theme 02

### アイレベルの自然(みどり・水)を生かしたまちづくり

4つの公園に加え、まちなかに点在するみどりをつなぎ、日常生活でまちなかを歩くときに感じる“みどりの体感価値”を向上させ、回遊を促進させます。自然が有する自立型の循環機能を生かし、歩行者の快適性を向上させます。

P. 9 KEYWORD / 自然



Theme 03

### 東西のシンボルストリートを基軸としたまちづくり

西口周辺の開発事業による駅前広場の再整備や、東口のクルドサック化による歩行者広場化により、駅東西に広大な歩行者空間を形成します。また、デッキの整備や地下通路により、駅を起点にまちの東西をつなぐ「ダンベル型のまちづくり」を推進します。

P. 10 KEYWORD / ストリート



Theme 01

世界に選ばれるアート・カルチャーによるまちづくり

KEYWORD 文化

まちなかの文化活動・多様なアクティビティの創出

「国際アート・カルチャー都市」の実現に向けて、劇場空間化された公園や広場をはじめ、官民一体となった積極的な土地利用により、日常的に文化活動や多様なアクティビティを創出していきます。

池袋ハロウィンコスプレフェス▶



▲ 民間の再開発による駅西口の結節機能の強化

人の活動が見える質の高い空間の形成

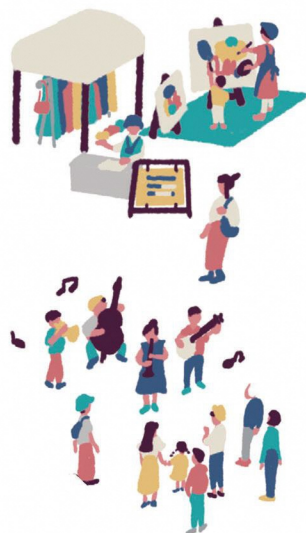
官民の境界となる中間領域のデザインや活用によって、まちなかの至るところで、多様な人々の活動が連続して見える質の高い空間を形成していきます。



子どもや女性、若者も含めたオールとしまでの取り組み

区制90周年を機に、池袋の企業や団体と連携したエリアプラットフォームが設立されました。「人」が主役のまちづくりの実現に向けて、これからの豊島区を支えることも女性、若者がまちづくりに参画できる「場」づくりを進めています。

◀ 池袋エリアプラットフォーム設立総会



Theme 02

アイレベルの自然（みどり・水）を生かしたまちづくり

KEYWORD 自然



▲ 水戸岡鋭治氏デザインのIKEBUS

▲ 南池袋公園

4つの公園を核としたみどり・水と触れ合える拠点の魅力向上

4つの公園をグリーンスローモビリティ「IKEBUS」でつなぎ、アート・カルチャーの取り組みにより、賑わいを創出し、回遊性を高めていきます。



▲ 豊島区庁舎をデザインした隈研吾氏と高野区長

まち全体におけるみどりの体感価値向上

区庁舎エコヴェールなど、まちなかの小さなみどりをつなげることで、身近な日常生活において「みどりの体感価値」を向上させるとともに、回遊を促進します。



▲ 西口駅前のモザイクカルチャー

グリーンインフラへの取り組み

歩道環境において、自然が持つ自立循環の機能を最大限活用し、歩行者の快適性を向上させます。

▶ 立教通りの再整備イメージ▶





Theme  
03

東西のシンボルストリート  
を  
基軸としたまちづくり

KEYWORD  
ストリート



### ダンベル型の まちづくりの推進

西口周辺の開発事業による駅前広場の再整備や、東口のクルドサク化による歩行者広場化により、駅東西に広大な歩行者空間を形成します。また、デッキの整備や地下通路により、駅を起点にまちの東西をつなぐ「ダンベル型のまちづくり」を推進します。



### ウォーカーブルな まちづくりによる 地域の活性化

回遊性の創出・向上により、地域の活性化を図ります。

◀ 池袋リビンググループの開催による  
グリーン大通りの賑わい  
写真提供/株式会社nest



▲ 駅東口の将来イメージ



▲ 駅西口の将来イメージ

### 駅東西の「人」が 主役の歩行者空間

駅の東西に広がる駅前広場空間は、人々の出会い・活動の場となる「人」が主役の歩行者空間としていきます。



おわりに

## 誰もが暮らしやすい ウォーカーブル都市・池袋

池袋駅周辺エリアでは、2015年の本庁舎建設・移転を皮切りに、文化・芸術の発信拠点であるHareza池袋や、地域の個性を生かした4つの公園など、公共空間のフル活用により歩行者優先の「まちづくり」を進めてきました。

今では、官民一体となって取り組んできた「人」が主役のまちづくりが徐々にカタチになり、全国的にも注目を集めるようになりました。

今後は池袋駅の東西に広場を設けて駅東西をデッキでつなげるなど、「ダンベル型のまちづくり」を推進し、回遊性を高めることを目標にしています。

誰もが自分らしいライフスタイルを実現できる「池袋」でありたい。そんな思いを抱きながら、これからも区民のみならず、「人」が主役のまちづくりを進めてまいります。

令和5年3月  豊島区  
TOSHIMA CITY



**問い合わせ**

〒171-8422 豊島区南池袋2-45-1 豊島区都市整備部都市計画課 TEL:03-4566-2640